



とちぎ食と農ふれあいフェアにおける農業体験



栃木県農業振興公社では、10月23日・24日、栃木県庁で開催された「とちぎ食と農ふれあいフェア2010」において、農業体験コーナーを開設しました。

農業体験を通して、食の大切さや農作業の手順、農家の人たちの苦労を肌で感じてもらおうと企画したものです。

体験メニューとしては、千歯扱きによる稲の脱穀、足踏み脱穀機による脱穀、野球ボールを使った籾摺り作業の3種類で、来場者には全作業を体験していただきました。

参加した親子らは、「刈り取った稲が、どんなふうにしてお米になるかよく分かった。とても楽しかった」と感想を述べてくれました。

目次

- 1 とちぎ食と農ふれあいフェアにおける農業体験
- 2 平成22年度経営構造対策事業研修会を開催
- 3 いちご需要拡大プロジェクト研究会を開催
- 4 平成22年度ふるさととちぎ
農業・農村児童画コンクール優秀作品
- 5 平成22年度ふるさととちぎ
写真コンテスト優秀作品
- 6 平成22年度ふるさととちぎ
写真コンテスト優秀作品
- 7 とちぎ夢大地応援団の活動
- 8 平成22年度食と農の組織活動支援事業の実績



平成22年度経営構造対策事業研修会を開催

経営構造対策事業等で整備した施設の利活用や成果を向上させ目標を達成するとともに、施設の健全な運営管理等を図るために研修会を開催しました。

研修「経営構造対策事業における耐用年数の変更について」



栃木県農政部農村振興課 課長補佐 南木 好樹 氏

研修会には事業実施主体や農協、市町、県等の関係者に参加をいただき1月14日(金)に実施しました。

研修では最初に県農政部農村振興課の南木補佐から事業で整備した施設の耐用年数の変更、続いて栃木農政事務所の矢田貝係長から来年度に事業が見込まれる農業の6次産業化事業の概要について説明を受けました。

講演「顧客満足度を高めるポケットファームどきどきの取組について」

また、講演としまして「都市と農村の交流」に意欲的に取り組まれている県外の先進事例について、全農茨城ポケットファームどきどき茨木町店所長小泉孝光氏から貴重なお話を伺いました。

ポケットファームどきどきは、年間60数万人のお客様が訪れる度に「食や農」の楽しみや感動を体験していただくことを使命として、従業員から臨時職員、更には、地域の協力者が同じ目的を共有して取組を展開することや日頃からお客の目線に立って創意工夫を重ねている実情が講演されました。



講師 全国農業協同組合茨城県本部
ポケットファームどきどき茨木町店 所長 小泉 孝光 氏



熱心に講演を聴衆する研修会参加者（50名）



いちご需要拡大プロジェクト研究会を開催

本県の代表的な作物であるいちごの新たな需要の開拓を図るため、生産から流通・加工・販売等の関係者が一堂に会して、共通する課題のプロジェクト形成を目指して研究会を2回開催しました。



話題提供
「業務加工向けいちごの情勢と産地の取組について」



第1回意見交換会

1回目は事前のアンケートを基に4グループ分け、グループ毎にテーマを設けコーディネーターとアドバイザーの進行で参加者（80名）から自由な意見交換を行いました。

意見交換に先立ち、流通・食品加工業や研究機関から本県のいちごを巡る現状や課題等について話題を提供し、参考にいただきました。

- グループ毎テーマは以下の内容で行いました。
 - (1) 環境制御、周年出荷等生産技術の革新
 - (2) 冷凍鮮度保持技術等を活用した流通の革新
 - (3) 食品製造業・農業者が連携した加工食品の開発
 - (4) 観光と連携した新ビジネスの創出
- 各グループからの意見
 - ・加工用いちごの量的拡大
 - ・上位等級を使った高級な加工品の開発
 - ・暖候期のいちごを活用する仕組み作り
 - ・観光客を受け入れる観光パッケージの企画

2回目は前回で検討された内容を踏まえ、2つの大きなテーマを掲げ、80名の参加者を3グループに分けて意見交換を行いました。

- テーマは
 - (1) いちごを活用したテーマ
 - ① 栽培技術の革新
 - ② 用途に応じた流通方法の検討
 - (2) いちごを核としたテーマ
 - ① いちごをテーマとしたサービスの提供
- 各グループからの意見を集約して4つのプロジェクトを形成するに至りました。
- 今後の対応
 - ① 2月下旬にプロジェクトに賛同された関係者が、プロジェクト毎に自主的な取組の推進を図るため、第3回研究会の開催を計画しています。
 - ② 各プロジェクトの実現に向けては、難しい課題もあり長期的な取組にならざるを得ないことも予想されますが、食の産業振興を図る「フードバレーとちぎ」や農林水産省の「6次産業化」等の連携を通じて農業者や事業者等を支援します。



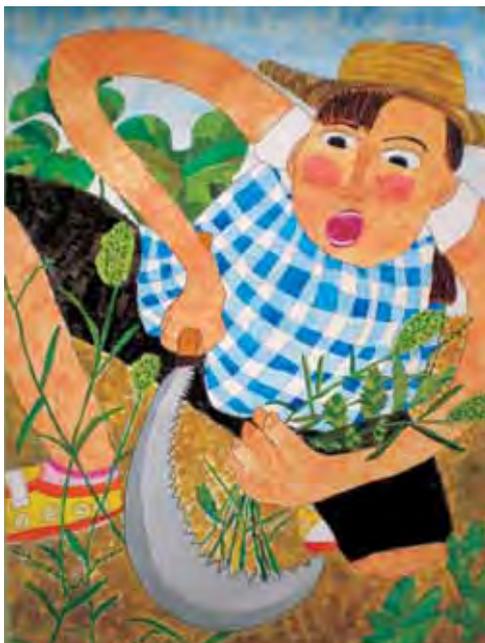
第2回意見交換会



平成22年度ふるさととちぎ 農業・農村児童画コンクール優秀作品

栃木県とふるさととちぎ21活性化塾（事務局：財栃木県農業振興公社）の主催による児童画コンクールで、県内の小学生から1,444点（172校）の応募があり、審査の結果入賞作品39点が選ばれました。昨年の10月23・24日に栃木県庁で開かれた「とちぎ食と農フェア-2010」で、表彰式と優秀作品の展示を行いました。

最優秀賞（栃木県知事賞）



▲低学年（1・2年）の部
野木町立南赤塚小2年 平野 恵里香さん
「パワーぜんかい！おばあちゃんののこぎりかま」

高学年（5・6年）の部▶
野木町立南赤塚小6年 平野 美由紀さん
「肥料まきをするおじいちゃん」



▲中学年（3・4年）の部
上三川町立本郷北小3年 岡田 莉佳さん
「かんぴょうむき」



◀ 最優秀賞受賞者と吉沢農政部長・野中理事長



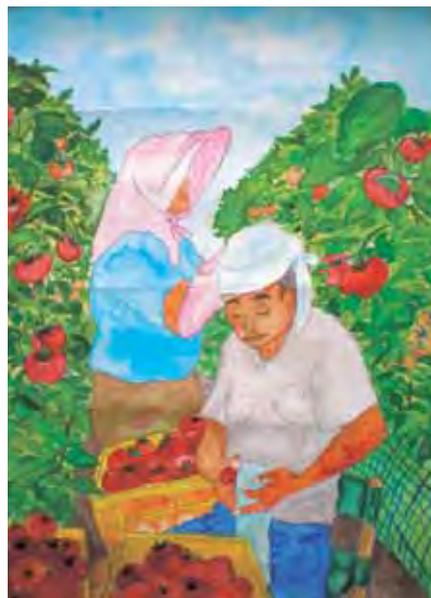
◀ 審査風景



優 秀 賞 (栃木県教育長賞)



▲ 低学年の部
宇都宮市立上戸祭小2年 渡辺 麦さん
「わたしの作ったきゅうりをみんなで食べました」



▲ 高学年の部
真岡市立長田小5年 石川 美優さん
「大事に育った真っ赤なトマト」



◀ 中学年の部
那須塩原市立青木小4年 室井 溪那さん
「田植え楽しいな」

優 秀 賞 (栃木県農政部長賞)



◀ 低学年の部
大田原市立黒羽小2年 小室 光さん
「トラクターにのっているじいちゃん」



▲ 高学年の部
真岡市立大内西小5年 田中 美有さん
「宇都宮のハイビスカス」



◀ 中学年の部
益子町立益子小4年 菅又 あいさん
「いねかり」



平成22年度ふるさととちぎ写真コンテスト優秀作品

栃木県、栃木県土地改良事業団体連合会及びふるさととちぎ21活性化塾の共催により、第17回美しいとちぎのむら写真コンテストを開催したところ、県内の中学生・高校生から109点の応募がありました。昨年12月に審査を行い、次の作品が最優秀賞・優秀賞に選ばれました。

農業に生き生きと携わる人々の部門

最優秀賞



真岡市立長沼中学校1年 杉山 佳那さん
「大名行列」

優秀賞



佐野松陽高2年 森戸 和博さん
「田植えの頃」



真岡市立長沼中学校3年 山口 舞衣さん
「じいちゃんとはあちゃんの成果」

農地、水、農村環境を守る活動部門

最優秀賞



宇都宮市立鬼怒中学校1年 門馬 加奈子さん
「澄んだ美しき水路」

優秀賞



宇都宮市立鬼怒中学校3年 中莖 仁貴さん
「へ～なるほど」



宇都宮白楊高1年 長島 史歩さん
「水とふれあう」



とちぎ夢大地応援団の活動

今年度のとちぎ夢大地応援団活動は、継続地区が9地区、新規が2地区の計11地区で実施しました。又それ以外にジュニア活動を年3回実施しました。活動は棚田周囲の景観保全、ホタル水路や親水水路の除草や清掃、ため池の泥上げ、カタクリ自生地の復活、歴史的景観の保全、そして耕作放棄地の草刈り（草と言うより雑灌木）と多岐にわたっております。多くの夢大地応援団会員や森林ボランティアの皆様にご支援をいただきました。当会社では、その活動に対して平成21年度より「食と農の組織活動支援事業」により活動資金の助成をいたしました。



那珂川町下平地区「耕作放棄地をソバ畑に」（平成22年度新規着手）



佐野市下秋山地区「耕作放棄地の雑灌木除去」（平成22年度新規着手）



ジュニア育成活動「18組約60名の参加」（場所：茂木町木幡地区）



平成22年度食と農の組織活動支援事業の実績



◆ 当公社では、農業・農村の持つ豊かな資源の保全や食と農の理解促進に向けた活動を自主的・主体的に実践する団体に対して平成21年度から支援（活動資金の助成）しています。

◆ 平成22年度は、計27団体（夢大地応援団活動団体11団体、食と農の理解促進活動団体16団体）の実践活動を支援しました。

● 平成23年度 食と農の組織活動支援団体一覧 ●

夢大地応援団 (11団体)		
団体名	市町	活動内容
文様ため池ふれあいの里づくり協議会	日光市	湿地環境保全活動 他
和田用水ホタルの里の会	鹿沼市	ホタル水路の維持管理 他
関谷上の内むらづくり推進協議会	那須塩原市	親水水路の維持管理
国見棚田保全組合	那須烏山市	棚田周辺の環境整備 他
下平地区遊休農地解消組合	那珂川町	遊休農地の再生活動
芦野の里づくり委員会	那須町	里山の景観整備 他
小貫焼く森の里づくり協議会	茂木町	里山の遊歩道整備 他
虹色の里あじ彩協議会	茂木町	里山の景観整備 他
大木須むらづくり推進委員会	那須烏山市	休耕田の雑草刈払い 他
下彦間地区むらづくり推進協議会	佐野市	里山の景観整備 他
佐野市下秋山町会	佐野市	遊休農地の草刈り 他

食と農の理解促進 (16団体)		
団体名	市町	活動内容
佐野市生活研究グループ協議会	佐野市	地産地消の推進 他
日光市農村生活研究グループ協議会	日光市	地元食材を使った料理の検討
下高島集落営農組合	栃木市	茶豆オーナーとの交流
瓜畑集落営農組合	栃木市	黒大豆オーナーとの交流
シヨク・シヨク・キャラバン	宇都宮市	学童保育児童への食農教育
アグリバルでらしま	塩谷町	農作業を通じた都市農村交流
壬生町母親クラブ	壬生町	子どもたちに対する米作り体験
絹ふれあいの郷交流維持組合	小山市	さつまいも栽培を通じた都市農村交流
寺尾地区グリーンツーリズム推進協議会	栃木市	農作業体験活動
皆川地区街づくり協議会	栃木市	農作業による地域住民交流活動
上後郷むらづくり協議会	茂木町	産・官・学連携による特産品開発 他
佐野市青少年クラブ協議会	佐野市	生産者と消費者との交流活動
下稲葉食育応援隊	壬生町	子どもたちに対する農業体験活動
栃木県交流サポーター連絡会	宇都宮市	米・米粉利用の加工品開発 他
エコットかめま地産地食部	鹿沼市	地元食材を使った加工品開発 他
皆川地区グリーンツーリズム推進協議会	栃木市	遊休農地を利用した野菜作り体験活動

◆ 今年度、支援を受け、活動に取り組んだ団体の一例を紹介します。

◆ まず、夢大地応援団活動に取り組んだ、1例ですが、全ての地区でお礼の意味を込めて昼食の賄いや、地域通貨（6地区で使用）に使用し、参加者に喜ばれました。



地域通貨でお土産を
(茂木町小貫地区)



親子で応援団の昼食
(茂木町河又地区)



地元で頑張る女性グループ
(虹色の里あじ彩)

◆ そして、食と農の理解促進活動に取り組んだ「壬生町母親クラブ」（壬生町：会員30名）。今年度の活動は、子どもたちに食べ物の大切さや作物を作る大変さを実感してもらうための「親子米作り体験」。地域の親子約50人が参加し、田植え（5月）、草刈り（6月）、稲刈り（9月）を行い、米作りの苦労や喜びを体感しました。また、青空の下、お母さんたちが先生となって、子どもたちに食の大切さを伝えていました。

◆ 当公社では、今後とも、県民の皆様に対し食と農の理解の促進に向けた取組を行うとともに、農村環境を維持保全する活動に積極的な支援を行って参ります。



お母さんたちによる青空食育教室

とちぎ発 元気農業

ふるさととちぎ21活性化塾だより51号

発行日 平成23年2月1日
編集・発行 ふるさととちぎ21活性化塾
所在地 〒320-0047
宇都宮市一の沢2-2-13
（財）栃木県農業振興公社内

TEL 028(648)9511(代)
FAX 028(648)9517
http://www.tochigi-agri.or.jp
Eメール：info@tochigi-agri.or.jp

